

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

たまちゃん通信

平成 29 年 7 月発行 89-2

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

「遊ビリテーション大全集」が登場

高齢者レクリエーションを存分に紹介



この7月、講談社から完全図解『遊ビリテーション大全集』が出版されました。監修、三好春樹(理学療法士・生活リハビリ研究所代表)、編著、土居新幸(言語聴覚士・介護支援専門員・社会福祉士)で、「高齢者レクリエーションの決定版!」と、帯に書かれています。(写真左)

編集を担当したのは、福祉に特化した編集プロダクションの七七舎(ななしゃ)です。編集に当たっては、七七舎から日本のお手玉の会に協力依頼があり、お手玉遊びに関する情報や写真などの提供をしました。

「遊ビリテーション」とは、生活リハビリにつながる遊びのことです。この本の特徴は、①認知症や片マヒ(右か左の一方にみられるマヒ)の人

も参加できる、
②事業所・施設内の関係づくりに最適、③誘い方からアレンジまで全部わかる、④飽きさせないコツを詳しく紹介...しているところです。

オリジナルの楽しい遊び 120 種が、完全図解で丁寧に紹介されていて、ページ数は 316 頁におよび、重さも約 1 キログラム近くあります。

お手玉遊びは 21 頁にわたり、お手玉の特徴、卓上お手玉ボーリング、お手玉落とし、ペットボトルを使った乳しぼりキャッチ、お手玉ヨーヨー、お手玉数え歌などが紹介されています。(写真右)

高齢者や老人介護に必要な“遊び”

この本では、高齢者や老人介護に必要なのは「遊び」であることを強調しています。つまり、「遊びの本質は自発性」です。この「遊び」の自発性と「リハビリテーション」がうまく結びついたのが、「遊ビリテーション」というわけです。

監修者と編著者は、次のように言っています。「認知症の介護にとって、『遊ビリテーション』は不可欠のものになっています。なぜなら、遊びが引き出す自発性こそが、認知症老人が落ち着くための最大の武器だからです」。

高齢者や認知症老人を対象とした「お手玉遊び教室」では、『遊びの自発性』を引き出すことに努めましょう。対象自身が、笑顔でお手玉遊びに取り組めるよう、最大限の配慮を心がけましょう。そうすることで、認知症を改善し、健康寿命を延ばすことができます。

